

薬用いて適切に禁煙

那覇で健康経営シンポ

琉球新報社は19日、従業員健康管理を経営的な視点で捉える「第9回健康経営シンポジウム」



従業員への健康管理の取り組みを報告した登壇者ら
＝19日、那覇市の琉球新報ホール（喜瀬守昭撮影）

を、那覇の琉球新報ホールで開催した。県薬剤師会の前濱朋子会長が禁煙について講演したほか、健康経営に取り組む企業の代表らが事例を報告した。約60人が参加した。

前濱会長はたばこの煙（主流煙）には、約5300種の化学物質が含まれ、うち約70種の発がん性物質が確認されていることを説明。副流煙の方が多い有害物質を含むとし、周囲の非喫煙者の健康にも悪影響を及ぼすと指摘した。

たばこをやめるには「根性ではなく、ちゃんと薬を使用し、周囲の理解も必要だ」と話した。

パネルディスカッションで琉信ハウジングの城間泰社長と那覇エアポトエンジニアリング総務グループの屋宜夏杏主任、協会けんぽ沖縄支部企画総務部の玉城雅人アドバイザーが登壇した。

フィットネスジムに通う社員への補助や定期的なウォーキング大会の開催などの報告もあった。

その結果、社員に健康に関する意識が高まり、現場の雰囲気改善や離職率の減少などにもつながったという。（呉俐君）